

平成 30 年度「ことばの輝き」優秀作品コンクール実施要項 (中学校・義務教育学校(後期課程)・中等教育学校(前期課程))

1 趣旨

生徒が日常の学習活動の中で作成した作文，論文，読書感想文，レポート等を募集し，優秀な作品を表彰するとともに優秀作品を広く紹介することにより，各中学校等における「ことばの教育」を推進する。

2 主催

広島県教育委員会



3 実施内容

(1) 対象

県内の中学校・義務教育学校(後期課程)・中等教育学校(前期課程)の生徒

(2) 募集する作品

作品は，次の3部門について募集するものとし，テーマ，様式，枚数等については，特に制限は設けないこととする。

なお，作品は未発表のものであり，今後他のコンクールに応募しないものに限る。

部 門	内 容
I 論理的に表現する力	説明文，記録文，報告文，意見文 等
II 豊かに表現する力	生活文，体験作文 等
III 本を読んで考え，表現する力	読書感想文 ※ 文末に書籍名，著者名，出版社名を記載すること。

(3) 応募方法

ア 市町立学校は，応募作品を別紙様式1-①(「ことばの輝き」優秀作品コンクール推薦書)及び2-②(「ことばの輝き」優秀作品コンクール参加作品数集約表)とともに市町教育委員会に推薦すること。市町教育委員会は，選考委員会等により審査を行った上で教育事務所等に推薦すること。

イ 国立学校は，広島大学理事(教育担当)を通して県教育委員会に推薦すること。

ウ 私立学校は，環境県民局学事課を通して県教育委員会に推薦すること。

エ 県立学校は，直接，県教育委員会に推薦すること。

オ 各学校が推薦できる作品数は，上記(2)の3部門について，各学年それぞれ3編以内とする。なお，推薦作品は校内選考会等により審査を行った上で推薦すること。

(4) 提出締切

市町立学校 平成30年9月10日(月)までに市町教育委員会へ提出

私立学校 平成30年9月10日(月)までに環境県民局学事課へ提出

国立学校 平成30年9月10日(月)までに広島大学理事(教育担当)へ提出

県立学校 平成30年9月10日(月)までに県教育委員会義務教育指導課へ提出

4 審査及び表彰

(1) 審査方法

県教育委員会事務局内に「ことばの輝き」優秀作品コンクール審査会(以下「審査会」という。)を設置し，審査を行う。審査会の構成については，別に定めるものとする。



(2) 審査基準

審査は、次の審査基準に基づいて行うものとする。

- | |
|--|
| <p>① 様々な材料を基にして、自分の考えをまとめ、相手や目的に応じ、筋道を立てて書いている。</p> <p>② 的確かつ効果的に表現している。</p> <p>③ 本を読んで、生活に役立てようとしたり、自己を向上させようとしたりすることなどを表現している。</p> |
|--|

(3) 表彰

県教育委員会は、審査会の審査に基づき、上記3(2)の3部門の学年ごとに最優秀賞1編、優秀賞2編程度を表彰する。

(4) 表彰式の実施

県教育委員会は、受賞生徒の表彰式を平成31年1月25日(金)に予定している。なお、表彰式の様子は広島県教育委員会ホームページ「ホットラインひろしま」に掲載する。

5 優秀作品

最優秀賞受賞作品については、受賞作品等を、優秀賞受賞作品については、受賞者名等を、広島県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」に掲載する。

※ 表彰式の様子や受賞者名等のホームページ掲載に不都合がある場合は、審査結果通知時に速やかに御連絡ください。連絡のない場合は、掲載の了承を得たものと判断します。

6 その他

- (1) 応募作品は返却せず、作品の著作権は広島県教育委員会へ帰属する。
(2) 参考や引用(写真等も含む)がある場合は、出典を明記すること。

<p>指導者のことば</p> <p>本校では、図書に親しませるための取組として、毎朝十分間の「朝読書の時間」の設置、年に1度の全クラスにおけるビブリオバトルの実施、図書委員会による推薦図書紹介、長期休業前の図書貸出奨励、読書冊数コンクール(年度末に表彰)、毎週金曜日に新聞のあるコーナーの視写(宿題)等を行っている。また、各種作文コンクールへの積極的な参加も促しており、徐々に、読書やことばへの興味・関心が高まりつつある。</p> <p>このたび、国語の授業で、「素材を生かして表現する」の単元において、体験と知識を関連づけながら素材を探して表現に生かすことについて学習した。また、知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて書く、書いた文章を読み返し、推敲して仕上げるということも学習した。本作品は、その後夏休みの課題として書いた作品である。</p>	<p style="text-align: right;">部門</p> <p style="text-align: right;">平成二十九年 最優秀作品(一部掲載)</p> <p>いつもとちがう日本語</p> <p>今住んでいる町に引越すまで、私はある田舎に住んでいました。スーパードも一つ、中学校も一つ、もちろん高層ビルなんてものは無く、一周ぐるりとその場で回転すると、山が途切れたり建て物に隠れたりすることなく町を囲むようにずっと連なっているのが見えるような所でした。</p> <p>そんな町にまだ住んでいた頃、やっと二けたの年になったばかりの私はある景色に出会い、それから今までその景色を忘れることができません。</p> <p>その頃は冬の真っ直中で、凍えるような冷気が古い家のすき間から侵入してきていました。家族みんなが厚い布団を体に巻きつけ、私も毛布に埋もれながら寝ていました。そしてふと目が覚めた時、私はいつもより空が明るく感じ、窓から外を窺いました。</p> <p>そこにあった、まるで一枚の絵がそのまま目の前に広がっているような景色に私は目が離せませんでした。</p> <p>大きな月が地に光を注ぎ、いつもは刈り田が広がっている所にかふかとした手ざわりが見えるだけで、伝わってくるような雪が覆いかぶさっていました。月の逆光で山は闇の色を湛えていましたが、空や空気がうす明るくなっていて、さらに、刈り田の奥に佇む茅葺きの上も真っ白になっていてそれはもう「かさこじぞう」のような昔話の一つの場面のような、それでいてどこか神秘的な風景でした。(略)</p>
--	--

※ 平成29年度最優秀作品及び指導者のことばは、広島県教育委員会ホームページで閲覧することができます。(http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kotoba/h29-kotoba-kagayaki.html)